

# 気になる子どもの 気づきと支援の手引 (改訂版)

— 保育所・幼稚園での支援の要点 —



# 目 次

まえがき

I	はじめに	1
II	気づきから支援までの流れ	3
III	4歳児・5歳児の発達について	5
IV	園にこんなことで気になる子 いませんか？	9
V	支援のポイントと対応 (Q&A)	11
VI	個別の指導計画の作成	25
VII	保護者との関わり方	27
VIII	参考資料	29
	県内の主な関係機関について	

## まえがき（改訂にあたって）

日ごろ、子どもたちの保育に従事している保育所、幼稚園の先生方に感謝申し上げます。

子どもたちは、保育所や幼稚園等のはじめての集団生活の場で様々な体験をし、子ども同士の関わりの中から心も体も大きく成長していきます。子どもたちはみんな違う個性を持ち、それぞれの感じ方があり、よいところをたくさんもっています。保育所・幼稚園の先生方は、たくさんの子どもたちと接してきた経験から、その中でも「この子、ちょっと気になるな・・・」と思うことや、「集団でうまく生活していけない」「コミュニケーションがとれない」などといった子どもたちに気づき、向き合い悩みながら子どもたちと関わっていくことがあるかもしれません。

香川県では、気になる子どもたちと関わる先生方の気づきと支援の一助になればと、平成 19 年に「気になる子どもの気づきと支援の手引」を作成しました。その後、平成 19 年に特別支援教育がスタートし、保育所・幼稚園においても、平成 20 年に新しい保育所保育指針と幼稚園教育要領が施行されました。また、現場の先生方から、どのように対応すればよいか Q&A のようなものがあればという御意見等もいただき、この度手引を改訂しました。

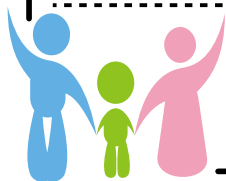
この手引には、園での生活の中で子どもの気になる行動や特性から原因や背景を推測し、子どもへの対応のヒント、支援方法などを記載しており、子どもの行動には理由があることやその子に合った支援について考える際に参考にさせていただきたいと思います。子どもの気持ちに寄り添った対応を工夫していくことは、全ての子どもたちにとって園での生活のしやすさに通じるものであり、こうした支援を実践するには、園全体で取り組むための体制づくりがとても重要となります。

是非この手引を折りにふれ開き、園の仲間の皆さんや保護者と話し合いながら、子どもたち 1 人ひとりを大切にした保育が実践されることを期待しています。

平成 26 年 3 月

香川県健康福祉部  
子育て支援課長

# I はじめに・・・



子どもに寄り添うときに  
いつも意識しておきたいこと・・・・・・・・

## 1 困っている子どもの気持ちを知る

\*「困っているのは子ども」という  
視点で考える

\*障がいの有無で子どもを見ない

### 子どもはどんなことに困っているの？

- 感覚が敏感（におい、音、接触）
- 分からなくて不安
  - ・これからどうなるのか
  - ・ここがどんな場所なのか
  - ・今、何をするのか
  - ・遊びたいけど、ルールが分からない
  - ・体をどう動かせばよいのか
  - ・先生の話していることが何なのか
  - ・いつになったら終わるのか
- 大勢の中で落ち着かない
- 食べられる物がない
- 言いたいことが言えない

## 2 子どもの気持ちを受け止める

\*なぜ、そのようなことをするのか、  
一度立ち止まって考えてみる

\*子どもの発達段階を知る

\*育てにくい子どもを育てる保護者の  
大変さを理解する

\*親の気持ちに寄り添う



## 手引の使い方

子どもの気になる行動には、必ず背景があり、理由があります。しかし、発達障害では障害があることが一見して分かりにくいいため、行動を良く観察し、そこから原因や背景を推測し、そして困っている子どもの気持ちに寄り添った対応を工夫していく必要があります。

### 「生活かんさつ表」(P9-10)

園内の生活の中から子どもの行動をもとに、保育者の「気づき」を整理、また振り返る機会とします。保育所・幼稚園内の情報共有を図ったり、支援の評価及び関係者への情報提供をする際の媒体としても活用できます。

### 「支援のポイントと対応 (Q&A)」 (P11-24)

「生活かんさつ表」の項目に沿って、子どもの行動から原因や背景を推測し、原因の見立て（仮説）を複数示しています。また見立てに添った「環境設定の工夫のヒント」「関わり方のヒント」を掲載しています。「家庭との連携のポイント」についても、園から家庭への働きかけの参考にしましょう。





子どもたちにとって保育所・幼稚園の先生は、将来を左右する重要な大人の1人です。一番困っているのは、子ども自身であることと考えることからスタートです。ここに書いてある4つの点を意識しながら、この手引きを使ってみてください。くり返し意識して、その子にあった接し方を見つけていきましょう。

### 3 その子に合った工夫をする

- \* その子の発達の特性を考える
- \* (大人の都合ではなく) 子どもにとって良い方法を考える
- \* 子どもたちが自ら行えるようになるよう、環境を整える
- \* その子に分かる方法で伝える
- \* 保護者と一緒にその子に合った方法を探す

### 4 子どもと共に成長する

- \* 1人で抱え込まず、園長や特別支援担当に相談をする
- \* 園全体で話し合いの場をもち、自分たちのレベルアップを図る
- \* 上手くいったら園全体で実践。工夫はみんなのためになる
- \* ポイントが分かれば保育の場でのゆとりができる



#### 「個別の指導計画」(P25-26)

「支援のポイントと対応(Q&A)」を参考にしながら個別の指導計画をまとめていきます。園内で一貫した支援を行うためには、誰が見ても分かりやすい目標と手立てを示した計画が必要です。

また、気になる行動だけでなく、長所や伸ばしたい行動、保護者からの情報についても記載しておく、よりその子に即した計画になります。

#### 「参考資料」(P29-30)

県内にある主な関係機関の一覧です。発達障害を早期に見つけ、早期に周囲の色々な関係者の支援を受けて育ったお子さんの予後は良好です。

普段から、地域で活用できる資源(園への巡回相談や、保健センターでの発達相談、特別支援学校の教育相談など)についても知っておき、日頃から関係機関とのコミュニケーションを大切にしましょう。



## II 気づきから



# 支援までの流れ

### 1 気づき

保育者が子どもが示した困り感に気づいた時には、1人で抱え込まず園長や特別支援担当に相談しましょう。日頃から、園内の相談を受けやすい雰囲気・体制づくりが必要です。

●担任等 保育者の気づき

●保護者の気づき

巡回相談員・関係機関 など

連携

### 2 状態の把握（情報収集）

生活かんさつ表（P9-10）  
を活用して「気になる」を  
把握

その他、  
●保護者等 養育環境  
●学級の状況 など

※状態の把握については、

- ①複数人で行うことで、多面的に子どもを理解すること
- ②1回だけでなく、期間を置いて複数回確認すること

が重要です。

### 3 支援体制づくり

子どもの状態把握で得た情報をもとに、支援方針を園内で話し合います。

園内で  
話し合いの場  
をもつ

【ポイント】

- ①子どもの「気になる」状況や特性、支援方法について職員間の共通理解を図ること
- ②子どもの長所を伸ばせるものを支援の優先順位の高いものとする
- ③現時点での短期目標と必要な支援を検討すること

見直し（長期）

## II

気づきから  
支援までの流れ



4 個別の指導計画の作成、支援の実施

ア 個別の指導計画の内容

○目標の設定

- ・スモールステップが基本
- ・直近で子ども自身が困っていること、あるいは手近に達成できそうな目標を設定します。

○具体的な関わり方・工夫

- ・支援のポイントと対応【Q&A】(P11-24)を参考に子どもの実態に応じた方法や内容について、より具体的に記載します。

イ 計画作成上の留意点

○本人の思いを知る

子どもが困っていることだけでなく、日常の行動から「何をしたいのか」、「どう感じているか」などの思いをくみ取る練習をしましょう。

○保護者の願いも聞いてみる

保育現場だけでなく、家庭での保護者の悩みなども受け止め、卒園後の姿も含めた保護者の願いを聞くことも大切です。

○多角的にとらえる

複数の目で見えて、担任だけではなく他の職員、園長などから情報を得るようにしましょう。

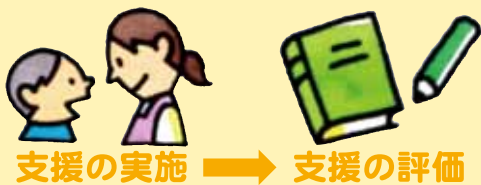
○園内・保護者と情報を共有する

全職員が統一した関わりができるようにすることが大切です。

また、可能であれば、保護者にも個別の指導計画への参加を呼びかけて、保護者にも理解と協力を得ます。

理解が得られる場合には、サポートファイル「かけはし」(※)の活用も検討します。

関係する職員



よりよい支援を行うためには、支援の経過や結果をもとに、さらに支援方法や内容、支援方針等見直しの繰り返しが必要です。

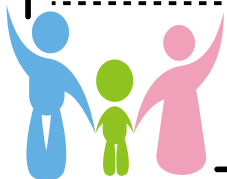
見直し (短期)

※サポートファイル「かけはし」とは・・・

本人または保護者が持ち、子どもの成長をみんなの力で支援していくために作られた記録ファイルのことです。関係者が子どもの育ちの情報を共有し、一貫した支援を行うことを目的としています。(香川県教育委員会事務局特別支援教育課)  
<http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/tokubetsusien/tokubetsusien/pdf/kakehashi.html>



# Ⅲ 4 歳児・5 歳児の



## 発達について

\*あくまでも 1 つの目安としてご覧下さい。(決して、これができないといけないということではありません。) 幼児の発達には個人差が大きく、環境によっても異なります。興味や刺激を与えていくためのヒントと考えましょう。

### ますます自立が進む4 歳児

4 歳児とは、年中さんのことです。自発性・意欲・協調性・自己コントロール力・我慢する力・競争心・人に対する思いやり……など少しずつ“心が成長”していく大切な1 年です。

#### 生活力

自分で食事をし、トイレにも行けるようになり、着脱・清潔の習慣が身についてきます。

- ・箸が使える。
- ・自分でパンツをおろして用をたす。
- ・自分の衣服の着脱や裏返しができる。
- ・鼻が出たら、自分でかんだ後にゴミ箱に捨てられる。
- ・顔を自分で洗う。
- ・夜のオムツがいらなくなる。
- ・ジャンパーなどのジッパーを自分でできる。
- ・こぼしたら自分で布巾や雑巾を使って拭ける。

#### 運動

体のバランスがとれるようになります。全身運動と並行して細かい運動ができるようになります。

- ・1 時間以上の散歩ができる。
- ・ブランコに立ち乗りができる。
- ・つま先立ちで後ろに歩くことができる。
- ・平均台などの高さのある台を一人で歩くことができる。
- ・マットで前転ができる。
- ・片足ケンケンが左右どちらの足でもできる。
- ・20m ぐらい全力で走ることができる。

#### 操作

興味が広がり、想像をはたらかせて、作り出す楽しさを知ります。目と手の協応性がしっかりしてきます。

- ・折り紙の角と角を合わせ、半分に折る。
- ・片手で紙を持って、簡単な形をハサミで切る。
- ・クレヨンで色を使い分けて絵を描く。
- ・ままごと遊びをして、家庭的な活動をする。
- ・絵の中に地面や家、部屋などが現れる。
- ・のりをつけて貼り付ける。
- ・モデルがあれば□や△をかく。
- ・積木でトンネルや線路をつくる。
- ・顔をかいて、続けて手・足・胴が出始める。



Ⅲ  
の4 歳児・5 歳児  
の発達について



## 友だち関係

いろいろな友だちと交じり、やりとりをしたり、競争したりすることを乐しみます。

- ・気の合う友だちと、簡単なルールのある遊びができる。(鬼ごっこ・かくれんぼ・だるまさんが転んだなど)
- ・ままごとやお店屋さんなどのごっこ遊びを楽しむ。
- ・ブランコなど友だちと順番に、物を使うことができる。
- ・他の子どもに『○○しようか』と、さそいかけることができる。
- ・自分が使いたいものを、友だちが使っている場合に『かして』と言う。
- ・友達と競争して負けるとくやしがる。

## 社会性

簡単な指示に従うことができるようになります。大人の要求に応えることに、喜びや誇りを感じるようになります。

- ・『おもちゃを貸してあげなさい』という指示に従うことができる。
- ・これまでできなかったことも、『○○だけれどもする』という心の働きで乗り越えようとする。
- ・幼稚園や保育園の先生の簡単な指示にも従う。
- ・いたずらなど、注意されたらすぐにやめることができる。
- ・『やってはいけません』という指示に従うことができる。
- ・ほめられると、もっとほめられようとする。
- ・小さい子のお世話をする。
- ・身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れて遊ぶ。

## ことば

自分の経験したことを話したり、質問に答えられるようになります。

- ・『お腹がすいたらどうする?』などという質問に正しく答えられる。
- ・1から10まで数えようとする。
- ・力行・夕行の発音がはっきりと言える。
- ・比較(重い・軽い、左・右、(5個以上の数)多い・少ない、弱い・強い)が理解できる。
- ・自分の名前を読むことができる。
- ・ほかの子の遊びに加わりたい時に『いれて』と言える。
- ・遊んだり絵本を見ながら、子ども同士よく会話をする。
- ・「だって」を使い、はっきりと理由を持って自己主張をする。
- ・その日にあった出来事を接続詞を使って、話せるようになる。

### III

の4歳児・5歳児の発達について



## 心がさらに成長する5歳児

5歳児は年長さんのことです。友だちとの関わりの中から自分のプライドや競争心も発達し、頑張る・あきらめない・譲るなどの複雑な気持ちの変化も経験しながら、「協調性」や「応用力」、「適応力」を身につけていきます。

### 生活力

身の回りのほとんどのことが自分でできるようになります。

- ・食器を洗い場へ持っていくなど、食事の後かたづけを手伝う。
- ・寝る前に自分からトイレに行く。
- ・排泄の後、おしりが上手に拭ける。
- ・自分で衣服を着脱でき、必要に応じて衣服を調整する。
- ・歯をみがき、口をすすぐ。
- ・入浴後に体を自分で拭く。
- ・布巾や雑巾をしぼる。
- ・ほうきやちりとりを使ってそうじができる。

### 運動

いろいろな運動の道具や遊具を使って工夫して遊べるようになり、長距離を歩く体力も育ちます。

- ・片足跳び（ケンパー跳び）、ジグザグ走りができる。
- ・ブランコに立ちのりして、1人でこげる。
- ・鉄棒での前回りができる。
- ・スキップができる。
- ・模倣体操ができる。
- ・1人でなわとびをする。
- ・ボールを投げたり受け止めたりできる。

### 操作

目的にあわせて様々な活動や操作ができるようになります。

- ・△や◇が描ける。
- ・絵の具で混色を作り絵を描く。
- ・人間の全身が描ける。自分たちの体験や空想の世界を絵で表現できるようになる。
- ・セロテープ・ホッチキスなど道具を用いて、イメージしたものを作る。
- ・虫取り網で、蝶やバッタをつかまえる。
- ・よく飛ぶように、ひこうきの折り方やとばし方を工夫する。
- ・サイコロを用いてゲームができる。
- ・作る前に作ろうとする物を頭に描き「縦・横・奥行き」などを意識して作る。
- ・自分の作った物がより飛んだり、回るように工夫したりする。





## 友だち関係

友だちと協力して、複雑なルールのある遊びに取り組みます。

- ・友だちと互いに主張したり、妥協したりしながら遊ぶ。(自分を抑えることができる)
- ・どちらがよくできるか、友だちと競争する。(ブランコ、ひこうき飛ばしなど)
- ・友だちのよさを認め、上手にできる友だちを見て「自分もできるようになりたい」と挑戦する。
- ・友だちと協力して、自分たちのイメージに添った物を創る。(砂場・積木・廃材を使つての基地やお家づくりなど)
- ・仲間意識が高まり、勝つためにはどうすればいいのか、話し合いをし工夫をする。
- ・ジャンケンで順番を決める。
- ・警察ごっこなど組織だった遊びをして、数人の子ともと遊ぶ。
- ・友だちがやってもらいたいと思っていることを、察してやってあげることができる。(車が動かないときなどに押してあげるなど)

## 社会性

自分をコントロールしながら、苦手なことに挑戦するようになります。

- ・朝登園した時に先生より先に自ら挨拶ができる。
- ・責任をもって当番活動をしようとする。
- ・地域の建物(警察署・消防署など)や働く人たちに関心をもつ。
- ・社会的ルール(交通ルールや公共の場での約束事など)を守る。

## ことば

ことばの表現力が増し、会話を楽しむとともに文字に対する関心が芽生えます。

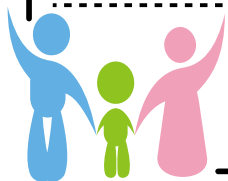
- ・複雑な物語を聞くことができる。
- ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ・時計を見て、時間に興味を持つようになる。生活の中で時間を意識する。
- ・昨日・今日・明日の連続的な時間の流れが分かってくる。
- ・童話や詩などの中のことばに興味を持ち、自らも話を作る。
- ・逆さことば、しりとりやなぞなぞが少しできる。
- ・野菜、果物、乗り物、動物、昆虫の名称・分類などが解る。
- ・誕生日や四季などに関心をもつようになる。
- ・ひらがなを一部ひろい読みできるようになる。自分の名前を書こうとする。
- ・サ行や『き』がはっきりと言える。
- ・自分の住所・電話番号・家族のことが分かる。
- ・話し言葉に文脈をつけようとする。(ex.『あのね、えーとね』『それから、えーとね』など)

III

の4歳児・5歳児  
の発達について



## IV 園にこんなことで



# 『気になる子』いませんか？

### 1 「生活かんさつ表」の目的

この『生活かんさつ表』は子どもの行動を客観的にとらえ、その子がどのようなことに困っていて、日々の生活の中でどのような対応が必要か、振り返り考えていただくためのものです。

園の生活の中で「気になる」を目に見える形にして、それをもとに園内でも話し合いの場をもち、より個別性のある支援の実施にまでつなげていただきたいと思います。

### 2 「生活かんさつ表」の使用方法

- 1 記入日とその日の子どもの年齢を記載する。
- 2 同年齢及び同性から際立っており、とてもよく観察される場合は◎、時々見られる場合は○、たまに見られる場合は△を付ける。
- 3 **対象は、4～5歳児の発達が気になる幼児である。**

## トピックス

### 愛着（あいちゃく）障害と発達障害

親の虐待（身体的虐待・精神的虐待・性的虐待・ネグレクト）により、発達障害と似た特性を現す子がいます。普段子どもの行動を表面的に見ると、発達障害のように感じられますが、その背後に親との愛着関係がうまく築かれてこなかったことが関与している場合があります。

こうしたケースでは、発達障害向けの通常の支援を行っただけでは、状況が改善せず、親との愛着関係を築き直さなければ、根本的な解決とはなりません。発達障害が疑われる子どもを発見したときは、そうした特性が生じている背景まできちんと把握することも大切です。



## 生活かんさつ表

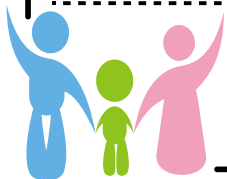
園での生活場面		行動・活動など	年 月 日 ( 歳 か月)	年 月 日 ( 歳 か月)	年 月 日 ( 歳 か月)	
	登園	① 先生が挨拶しても、目が合わず挨拶しない (…P11)				
		② お母さんから離れられなくて毎日泣いている (…P12)				
		③ 荷物を決められた場所に置けない (…P13)				
	生活	食事	④ 他の子どもと比べて極端に好き嫌が多い (…P14)			
			⑤ お箸が使えない			
		排泄	⑥ 頻繁に姿勢を変えてじっとしてられない (…P15)			
			⑦ トイレで1人で用を足せない (…P16)			
	更衣	⑧ 衣服の着脱を先生がよく手伝っている				
		遊び	⑨ 滑り台やブランコの順番が待ちきれない (…P17)			
	⑩ じゃんけんの意味が分からない。または勝ち負けに極端にこだわる					
	⑪ 文字、数字、商標など機械的でパターンのもの、または図鑑やカタログ、ロゴなどを他の子どもと比べて極端に好む					
	ことば	⑫ 話しかけても、オウム返しやひとり言が多い				
		集団の中での様子	⑬ 気に入らないと噛んだり叩いたり、暴力をふるうことが多い (…P18)			
	⑭ パニック・かんしゃくを起こす (…P19)					
	⑮ 他の子のものを持ってきてしまう (…P20)					
	⑯ 椅子に座ってられず、すぐに保育室を出て行ってウロウロしている (…P21)					
	降園	⑰ いつまでたっても帰りがたがらない (…P22)				
		行事 (発表会 園外保育 など)	⑱ 練習が始まると、情緒が不安定になる (…P23)			
	⑲ 踊りや体操がうまくまねできない					
	⑳ いつもと違う場所に行くと集団から離れてしまう (…P24)					

### IV

園にこんなことで『気になる子』いませんか？



# V 支援のポイントと



## 対応 (Q&A)

登園  
1

### あいさつをしないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※人との関わりが苦手なの  
かも？



- 他には . . .
- \*見通しと異なる声かけに対応できないのかも？
- \*よく聞き取れなかったのかも？
- \*理解できていないのかも？
- \*周囲に気をとられていたのかも？
- \*タイミングが分からないのかも？

支援のポイント

### あいさつをする習慣をつけていきます

#### 環境設定の工夫のポイント

- カードや物を使用し、言葉を添えてコミュニケーションをとります。
- 子どもの注意を向けてから声をかけるようにしましょう。
- 1日のスケジュールが目で見分けるようにします。

#### 関わり方のポイント

- 先生とタッチすることや握手することなどからスタートするのも良いでしょう。
- 段階的に、目を合わせたり、お辞儀をしたり、少しずつ関わりを増やしていきます。

#### 家族との連携のポイント

- 普段の家での様子を聞きます。
- 家庭でも挨拶の習慣をつけていきます。



## 登園 2

# お母さんから離れられなくて、 泣いているのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※お母さんから離れることは子どもにとっては環境が変わって、不安なのかも？



- 他には . . .
  - \*感覚が過敏でざわざわした音が不快なのかも？
  - \*これからどうなるのか、ここがどういう場か分からず不安なのかも？
  - \*母親がいることにこだわっているのかも？

### 支援のポイント

子どもが安心できる方法を考えます

#### 環境設定の工夫のポイント

- 本人が好きなおもちゃを用意します。
- 母親のお迎えの時間を教えます。

#### 関わり方のポイント

- 子どもの気持ちに添った声かけをします。
- 気持ちを切り替えられるよう、その子の好きな遊びに誘うなどします。
- 母親が帰るとケロツとしている場合には、母親に早く帰ってもらうように伝えましょう。

#### 家族との連携のポイント

- 普段や今朝までの様子を聞きます。
- 生活記録を共有します。
- その日の天候も記録しておきます。(気圧や湿度等が体調や気分に影響を与えるため)



短く、穏やかな声で。肯定的に。



支援のポイント  
と対応(Q&A)



### 登園 3

## 荷物を決められた場所に置けないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

- 他には . . .
  - \*他に興味がある物があるのかも？
  - \*今、何をすればいいのかわからないのかも？

※どこに何を置けばいいのかわからないのかも？



#### 支援のポイント

決まった場所にいつも  
置けるよう、その子が自分でできる工夫を考えます

#### 環境設定の工夫のポイント

- 持ち物と置く場所に同じマークをつけます（子どもが好むシールなど）。
- 手順や場所がわかりやすいように絵や写真を使います。

#### 関わり方のポイント

- 手順表を見せながら手順を伝えます。
- 指示は、動作や言葉を添えます。
- その都度「できたね」とほめます。

#### 家族との連携のポイント

- 家庭と園で同じマークを使用します。
- ひとつでも子ども自身で持ち物の準備ができれば、家庭でほめてもらうように伝えます。



「A子ちゃんの手すりはどこかな・・・？」

## 好き嫌いが多いのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※味覚が過敏なのかも？



- 他には . . .
- \*見た目（形、色）にこだわりがあるのかも？（丸いもの、白いものなど）
- \*食べ物の温度にこだわりがあるのかも？
- \*においが苦手なのかも？
- \*食わず嫌いなのかも？

支援のポイント

感覚の過敏に配慮します

### 環境設定の工夫のポイント

- 無理強いせず、その子が食べきれる量をお皿によそいます。
- 給食の場合は、同じ食材でも調理法を変えたり、食材別に分けてあげたりします。

### 関わり方のポイント

- 苦手な物を無理強いせず、「残していいよ」と声をかけます。
- 小分けにして、少しでも食べることができたら、ほめます。
- 子ども自身が食事は楽しいものと感じられるようにします。

### 家族との連携のポイント

- 好き嫌いの内容や同じ食材でも調理の仕方を変えると食べられるなど、家庭での工夫を聞いておきます。
- 園で食べられるようになった物を家庭に伝えます。



盛りつけ方や食器にも配慮します。



## 頻繁に姿勢を変えて、じっとしてられないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※目に入ってくるものや耳に入ってくる音に落ち着かないのかも？



- 他には . . .
- \*他に興味がある物があるのかも？
- \*話が分からないのかも？
- \*姿勢を保持する筋肉が弱いのかも？
- \*自分の体が動いていることが、意識できにくいのかも？
- \*いつまでじっとしていなければいけないのか分からないのかも？

### 支援のポイント

周りの余計な刺激を避け、他に注意が向かわないようにします

### 環境設定の工夫のポイント

- 体に合っている、座りやすい椅子を用意します。または滑り止めシートを利用します。
- 注目がそれて、ほかに注意が向いてしまうような物は見えないようにします。
- 「今、何をやる」「これから何をやるのか」分かる絵カードや物を用意します。
- 先生の近くの席にします。

### 関わり方のポイント

- 子どもが先生に注目していることを確認してから話します。
- 話す内容を予告します。
- いつまでそうしておかなければいけないかを予告します。
- 身体を一部動かすと落ち着くので、例えば仕事を与えて動ける時間をつくります。

### 家族との連携のポイント

- 話をするときは、子どもの注意を向けてから話をするようにしてもらいます。
- 家庭と園でそれぞれの工夫を互いに伝えます。



話す内容を予告します。





# トイレで用を足せないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※手順が分からないのかも？



- 他には . . .
- \*したくなくても伝えられないのかも？
- \*するタイミングが分からないのかも？
- \*園のトイレが嫌いなのかも？
- \*オムツの中にすることにこだわっているのかも？
- \*トイレとっていないのかも？

## 支援のポイント

ていねいに、根気よく、スモールステップで教えます

### 環境設定の工夫のポイント

- トイレの高さや大きさが子どもに合っているか確認します。
- トイレの使い方は絵や写真、手順表などで子どもに分かりやすく示します。
- トイレットペーパーの1回に使う長さを図に示すなどします。
- トイレに子どもの好きなキャラクターのシールを貼ります。

### 関わり方のポイント

- 子どもの様子をよくみて、決まった時間にトイレへ促します。
- 基本的なマナー、例えばトイレ以外の場所では服をおろさないなどを伝えます。
- 排泄行動とトイレという場所をつなぐようにします。(ex. オムツをしてでも、トイレに移動して排泄することからはじめましょう。)

### 家族との連携のポイント

- 家庭での工夫、園でうまくできた取組みを互いに伝えます。
- 失敗しても怒らないように話します。
- わずかな時間でもトイレに座れたなど、少しでもできたら家庭でほめてもらうように伝えます。



手順表などで分かりやすく示します。

## 順番が待てないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※順番そのものを理解していないのかも？



- 他には . . .
- \*目に見えないルールを理解するのが苦手なのかも？
- \*どこに並べばいいのかわからないのかも？
- \*ルールを忘れてしまうのかも？

### 支援のポイント

目に見えないルールを見える形にします

#### 環境設定の工夫のポイント

- 並ぶ場所が本人に分かるように待つ場所をつくります。
- 次の順番の人は目印のぬいぐるみを持つなど目で見て分かる工夫をします。

#### 関わり方のポイント

- 目に見えない決まりごとを、その子が理解できるように、絵や写真を使って伝えることが必要です。
- ルールを守ることができたら、ほめましょう。
- 叱ったり責めたりせず、その都度繰り返し伝えます。

#### 家族との連携のポイント

- 家庭と園でそれぞれの工夫を互いに伝えます。
- 買い物のレジで順番を待ったり、電車やバスに乗るときに列に並んだりする姿を子どもにも見せます。





## 集団 1

# 気に入らないとすぐに噛んだり叩いたりするのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※うまく言葉で自分の気持ちを伝えるのが難しいのかも？



- 他には . . .
- \* (ゲームなど) ルールが分からないのかも？
- \* 嫌なことがあってイライラしているのかも？
- \* 他の子の気持ちが分からないのかも？
- \* 言葉の発達が遅れているのかも？

### 支援のポイント

その場から離し、本人が落ち着ける場所へ連れて行きます

### 環境設定の工夫のポイント

- 意思表示ができる伝言カードを作っておきます。
- 別の部屋の一角に刺激の少ない避難スペースをつくっておきます。
- 持っていると安心できるグッズを置いておきます。
- 危険なものを遠ざけ、二次的な事故を防ぎます。

### 関わり方のポイント

- その場所・相手が視覚に入らない場所まで移動します。
- 緊張をゆるめ、嫌な気持ちをかえることができるよう、リラックスの方法を考えます。
- 叩く以外の意思表示について、絵などで分かりやすく穏やかに伝えます。
- 手をあげそうな場面で事前に止められるよう、よく観察します。

### 家族との連携のポイント

- 自宅で困っていること、不安に思っていること、家庭での工夫を聞いてみます。
- その子が落ち着きやすいグッズなどがあれば、お守り代わりに持ってきてもらいます。
- 気持ちを静める方法を一緒に探します。



気分転換をはからせます。

V

支援のポイント  
と対応(Q&A)



## 集団 2

# パニックを起こすのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※「何をすればよいか」  
「これから何が起きるの  
か」 不安になったのかも？



- 他には . . .
- \*見通しが崩れてしまったのかも？
- \*つらい体験を思い出したのかも？
- \*本人にとって嫌な音や匂いがあったのかも？
- \*突然の変化があったのかも？
- \*言葉で伝えられなかったからかも？

### 支援のポイント

落ち着ける場所に移動させ、気持ちを落ち着かせます

### 環境設定の工夫のポイント

- 目で見て確認できるものを使い、安心を促します
- カーテンで仕切る、別の部屋の一角に刺激の少ない避難スペースを確保するなど、その子が落ち着く環境を用意します。

### 関わり方のポイント

- 予定の変更があった時には、事前にその子に分かるように伝えます。
- 前兆（ウロウロ歩き回る、顔つきが変わるなど）の変化を見落とさないようにします。
- パニック時は安全を確認し、静かに見守り、終わった後に状況を伝えます。

### 家族との連携のポイント

- 普段から本人の苦手なものや嫌いなものなど、パニックを起こさないで済むよう家庭と情報を共有します。
- パニックの前兆についても、確認しておきます。



興奮のピークが過ぎるまで見守ります。

### 集団 3

## 他の子の物をもってきてしまうのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※自分の物と他人の物の区別がつかないのかも？



- 他には . . .
  - \*とってはいけないということが分かっていないのかも？
  - \*衝動性が強くて、もってきたのかも？
  - \*拾った物を自分の物としているのかも？

#### 支援のポイント

自分の持ち物が目で見て分かるような工夫をします

#### 環境設定の工夫のポイント

- 自分の持ち物が分かるように、同じマークのシールを貼っておきます。
- 置きやすい場所、取りやすい場所を設定します。(例えば、端の方など)
- 物には、持ち主がいることを普段から伝えるようにします。

#### 関わり方のポイント

- どんな時に、どんな物を持ってきてしまうのか、その子の行動を注意深く観察しましょう。
- 一方的に注意するのではなく、「してはいけないこと」、「しなければならないこと」を本人に気づかせることが重要です。そして、相手にあやまることをていねいに教えます。その際、絵カード、写真などを使い視覚的に分かるように教えましょう。

#### 家族との連携のポイント

- 園での持ち物の確認方法を伝えます。
- 片付けする際に、親子で通園バックの中身を一緒に片付けながら確認してもらうよう、一緒に根気強く取り組みます。
- 家庭や外出時の様子についても情報を得ます。



支援のポイント  
と対応(Q&A)



## 集団 4

# 椅子に座っていられず、保育室を出て行って、ウロウロするのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※集団が苦手で、その場に居ることができなくて、出て行ったのかも？



- 他には . . .
  - \*気になるものが目に入り、衝動的に保育室を出て行ったのかも？
  - \*刺激を求めて動くのかも？
  - \*刺激となる音に耐えられなかったのかも？
  - \*園でのルールが理解できていないのかも？

### 支援のポイント

外に出ていく原因を、その子の様子をよく見て想定してみることから始めましょう

### 環境設定の工夫のポイント

- 「今、何をすればよいか」、絵カードや写真などを使い視覚的に示します。
- その子が座る場所を考慮しておきます。(ex. 先生の近くの席など)
- 外のものが気になり飛び出す場合は、カーテンを閉め、目に入らないようにします。
- 保育室の一角にその子が落ち着ける場所を準備します。

### 関わり方のポイント

- 『どんな時ウロウロするか』、反対に『ウロウロしないで教室で過ごせるのはどんな時か』、『どんな声かけをすると戻ってこられるか』など、子どもの行動パターンや関わりを記録しておきます。
- 外に向かっていく子どもに「ダメ」「やめようね」など、しては行けないことだけを伝えるのではなく、例えば「座って〇〇をしてね」など、子どもにして欲しいことも同時に伝えます。

### 家族との連携のポイント

- 普段の様子を聞きます。
- 生活記録を共有します。
- 原因が感覚の問題であれば、イヤーマフの活用（※図）について紹介します。



## 降園

# いつまでたっても帰りたいがらないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※「終わり」ということが分からないのかも？



- 他には . . .
  - \*何をすればよいか分からないのかも？
  - \*まだやりたいことがあるのかも？
  - \*分かっているけど切替ができないのかも？
  - \*何か嫌なことがあるのかも？

## 支援のポイント

終了の仕方・片付けの仕方を分かりやすくします

### 環境設定の工夫のポイント

- 他の園児と一斉にせず、その子のペースで取り組むことができるようにします。
- 荷物の確認ができるよう絵カードや写真等を作成し、帰りの支度を一人でできるようにします。
- 帰り支度（動作）のスケジュールをつくっておき、毎日同じ手順で行えるようにします。

### 関わり方のポイント

- 帰りの時間になる前に、どのくらいで終わるかを予告しておきます。
- 「帰る時間だから片付けようね」「バスに乗って帰る時間だね」とおしまいが分かるように声かけをします。

## 家族との連携のポイント

- 行動の切替ができれば、家庭でもほめてもらうよう伝えます。



「そうだね、帰りのバスに乗る時間だね。」



支援のポイント  
と対応(Q&A)





## 行事1 発表会

# 練習が始まると、情緒が不安定になるのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※いつもと予定が違うのが不安なのかも？



- 他には . . .
  - \*大きな音や音楽が苦手なのかも？
  - \*何が起きるのか不安なのかも？
  - \*自分が何をすればいいのか分からないのかも？
  - \*いつになったら終わるのか分からないのかも？

### 支援のポイント

どうすれば本人が安心して参加できるのか考えます

### 環境設定の工夫のポイント

- 何回練習するかを示しておきます。
- カレンダーに早目に記載し、予告します。
- 絵や文字の入った分かりやすいプログラムを作成し、進行状況が誰にでも分かるようにします。
- 出番や役割が分かるように、プログラムに印を付けます。

### 関わり方のポイント

- プログラムを見せながら指示します。
- 活動によっては先生と一緒に参加したり、子どもの組み合わせに配慮します。
- 練習風景を一度見せ、イメージができるようにします。
- 子どもを、音の少ない落ち着ける場所（部屋の隅など）で待てるようにします。
- 大きい音が出る太鼓などは、本人に叩かせてみる方法もあります。（予想がつく音は大丈夫だということがあります。）

### 家族との連携のポイント

- 普段と違っている状況の時期等を事前に説明し、理解を得ておきます。
- 得意なこと、好きな物、苦手な物の情報を共有しておきます。
- 子どもの成長や良いところを共有します。
- 練習で頑張っている様子を伝えます。



# いつもと違う場所に行くと、集団から離れてしまうのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※これから起こることの予想がつかなくて不安なのかも？



- 他には . . .
- \*気になる物が目に入り、その場を離れるのかも？
- \*触覚刺激が過敏で手をつなぎたがらないのかも？
- \*空間的な境が分からないのかも？

## 支援のポイント

具体的な活動がイメージできるよう事前学習をします

### 環境設定の工夫のポイント

- 急に道路に飛び出すなど、予想される危険な行動に注意します。
- 不安にならないよう園外保育の流れを絵や写真で時系列に並べて見せ、見通しが立つようにします。
- 空間の意識をつけるようにします。

### 関わり方のポイント

- 日頃の行動を観察し、どのようなときに集団を離れるか把握しておきます。
- 園外に出る前に約束ごとを確認しておきます。
- 出かけた先では関心が他のところにそれそうになったら、声かけをします。

### 家族との連携のポイント

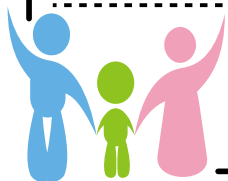
- 関心が向かいそうな物、苦手な物を確認します。
- 事前にどのような場所かを保護者にも伝え、保護者と子どもと下見に行ってもらったうえで、保護者の視点での留意点を教えてもらいます。



「お水のところにはいかないよ。」



# VI 個別の指導計画の作成



## Aちゃんの個別の指導計画（記入例）

(作成日) 平成 年 月 日		(担当者氏名) ○○○○○○	
フリガナ (名前)	A	男・ ②女	(年齢) 4歳5か月 (生年月日) ○○年○○月○○日
既往歴	なし (内服なし) <i>分かる範囲で記載し、分かればその都度追加します。</i>	健診状況	・3か月健診：首が座っていない（要観察） ・1歳6か月健診：ことばの遅れを指摘され、その後ことばの教室に2カ月通っていた。
全般的な様子	<p>登園・降園、生活（食事・排泄・更衣・その他）、遊び・運動、ことば、集団の中での様子・制作、行事（発表会・園外保育等）など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ自分のことは自分でできている。普段、園での生活（毎日同じ繰り返し慣れていること）はできるが、突発的なできごとには、戸惑うことがある。</li> <li>・新しいことを覚えるまでは時間がかかるが、一度覚えたことや慣れたことはきちんとできている。</li> <li>・一人遊びが多かったが、気の合う友達ができ、一緒に遊んでいるときは、笑顔や会話をする姿が多くなってきている。困ったことを感じた時は、「先生どうするの？」など自分から聞こうとするようになってきている。</li> </ul>		
気になること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示に従えないことが多い。クラス全体に話しかけている時も、個別で声をかけた時も、聞いているのかいないのかよく分からない。（視線が合いにくい）</li> <li>・必要のないものをかばんに入れようとして（入らなくても無理に押し込もうとすることも）声をかけるとやめる。どうしたのか尋ねても首をかしげ、他の子の物を持ってきてしまうことが多い。</li> </ul>		
子どもの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意なこと</li> <li>・好きなこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見ること</li> <li>・絵をかくこと（イメージした絵を描く）</li> <li>・気の合う友達と遊ぶこと（ごっこ遊び、虫探しなど）</li> <li>・大人（先生）と話をすること、手伝いをする</li> </ul>	
保護者からの情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望むこと</li> <li>・家庭での様子や対応など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと自分ひとりで、何でもできるようになって欲しい。</li> <li>・分かっている時とそうでない時があるので、わざとできないふりしているように思う。つつい手を出してしまう。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善すべきこと</li> <li>・できるようになって欲しいこと</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目を合わせて話が聞け、集団の中で指示に従うことができる。</li> <li>・自分のものが分かり、自分のものを持ってくることができる。</li> <li>・分からないことや困ったことを、先生など周りの人に伝えることができる。</li> </ul>	

できれば、長所や伸ばしたい行動を含むことが望ましい





## 目 標（期待する状態）

- ◎ 本児が好きな絵本について、先生の質問に答えたり自分から面白かったことを話したりする。
- × 社会性を伸ばす。

実現可能な直近の目標、あるいは手近に達成できそうな具体的な目標を設定します。

### 伸ばしたい行動や特徴に対するかかわり方について

- ・ して欲しい行動は口で言うだけでなく、まず一緒にしてみる。（手本を見せる）
- ・ Aちゃんの正面から視線を同じ高さにして話しをする。
- ・ 全体に話をする前に、Aちゃんには先に個別に「Aちゃん、今から先生が〇〇のお話しをするから聞いてね。」と予告しておく。
- ・ してほしい行動を細分化（「困ったとき」には、①先生を探す②先生を呼ぶ③先生に困っていることを伝える④うまく伝わらないときは、再度伝え直すなど）して、できた行動は、その場ですぐにほめる。通してできるようになれば、もっとほめる。

### 環境設定の工夫について

支援のポイントと対応を参考にしながら、その子なりの適切なかかわり方をまとめます。

- ・ 先生の近くの席にする。
- ・ 常に音がする時計は注目がそれてしまうため、音が出ない時計と交換する。
- ・ これからする行動を視覚的に実物、絵・写真などで提示して話をする。
- ・ 絵本を利用する。（本児の興味のある教材の活用）

### 保護者との連携について

- ・ 園でやってみて成功したことを話し、家でもほめてもらう。
- ・ 家でできること・できないこと等の情報を共有する。また、できているところまでは見守ることが大切なことを伝える。
- ・ 目が合ってから指示を出すことを家庭でも母・父・祖父母にも実践してもらう。

### 関係機関との連携について

支援のポイントと対応等も参考に

- ・ 園への巡回相談等を利用して、保護者と一緒に児のかかわりについてアドバイスをもらう。
- ・ 地域の保健師に子どもを対象とした相談窓口や療育等、社会資源についての情報を得る。

### \*個別の指導計画の見直し 平成26年2月15日（評価・課題など）

目標設定後、1～3カ月を目安に見直しをします。

- ・ 個別に話をする時は、ほぼ毎回視線が合うようになり、話もかみ合うようになってきた。
- ・ 他に気になることややりたいことがある時は聞いていないこともあるので、子どもが集中しやすい時間やタイミング、場所を観察して、他の先生とも情報を共有する。
- ・ 全体に話をする時は、引き続き、集団への声かけと同時に個別への声かけも必要である。

VI

個別の指導計画の作成



## Ⅳ 保護者との関わり方



保護者が子どもの行動に問題意識をもっていない、あるいは拒否するような場合

### 保護者が困っていない要因を考えてみる . . .

- \*保護者と1対1の場面では特に問題がなく、集団生活の中のみで気になる行動が出現するのかも？
- \*家庭内でさらに手がかかる人（病気や兄弟など）、気になること（仕事や経済面など）があり、相対的に子どもへの関心が薄れているのかも？
- \*家族に子どもと似た特徴を持っているか、かつて持っていた人がいるため、子どもの行動に違和感を持っていないのかも？

#### 支援のポイント

保護者との信頼関係が大切です

#### ① 保護者の気持ちを理解する

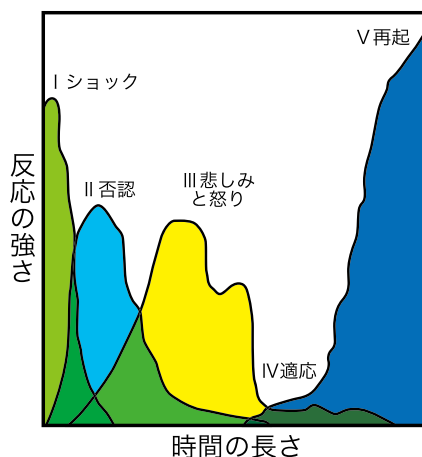
障害受容は、

**I ショック ⇒ II 否認 ⇒ III 悲しみと怒り  
⇒ IV 適応 ⇒ V 再起**

という過程を行きつ戻りつしながら進むといわれています。

無理に明るくふるまったり、将来を悲観してしまったり、「そんなはずはない」と強く否定したりと様々な感情を抱きます。

気がかりなことがあると言われても、安易には受け入れられないことを念頭におき、保護者の思いを共有することが大切です。



#### ② 信頼関係を築く

日頃から、保護者とも会話を多く持つよう心がけます。

楽しい出来事や子どもの良いところを伝えるなどの関わりを重ね、話しやすい関係づくりに努めます。

##### ※留意点

- ・登降園時は他の保護者も一緒にいるので、保護者が嫌な思いをしないよう何気ない会話にも十分配慮するようにしましょう。
- ・指導や助言が優先にならないように心がけます。





### ③「気になっていること」を話してみる・話を聴く

園での様子を客観的に、丁寧に説明したうえで、保育士・幼稚園の教員としては、その行動を心配していることを伝え、「子どもが楽しく園で過ごす対応策を相談したい」というように、保護者に依頼します。

今日、紙芝居をしたら席をわってしまふことがありました。昨日の〇〇のお話はよく聞いてくれたのですが・・・。

Aちゃん、お家ではどうですか？どんなお話が好きですか？園でもとり入れていきたいので、教えていただけませんか。



#### ※留意点

保育者の思いについては、肯定的な表現で保護者に伝えます。

- 例：① ×「友達のおもちゃを取るのをやめさせたい。」  
⇒○「友達と一緒に仲良くおもちゃで遊べるようにしたい。」
- ② ×「友達をたたくのをやめさせたい。」  
⇒○「一緒に遊びたい気持ちを上手に表現できるとうれしい。」



### ④関係機関の利用について伝えていく

現実的に子どもに気を配ったり、相談機関に連れて行くような時間がとれない家庭もあるので、可能な範囲で保護者の都合を考慮することも必要です。例えば、過去に関係機関に相談したことでよい結果が得られた例などを紹介することも良いと思います。

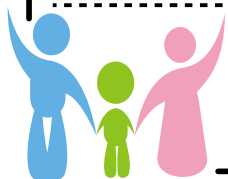


#### ※留意点

- ・関係機関を紹介する場合には保護者の了解を得た上で、気になる点を紹介先に事前に連絡することが大切です。(→1度の相談場面では子どもの特性が現れないこともあるため)
- ・診断=レッテルを貼るのではなく、「子どもがより良い方向に進むきっかけ」ということを伝え、保護者の不安を和らげることも必要です。初めから医療機関ではなく、市町の相談窓口など身近な関係機関を紹介するようにしましょう。



## VIII 参考資料



### 県内の主な関係機関について (平成26年3月現在)

身近な地域の相談機関		
相談の内容	窓口名	連絡先 / 掲載先
乳幼児の健康相談、子どもの発達やことばについての相談	市町保健センター	※お住まいの市町の連絡先を記入してください。
児童の福祉サービスについての相談	市町児童福祉担当課	
障害児・者の福祉サービスについての相談	市町障害福祉担当課	
就学時の教育相談	市町教育委員会	
地域の障害児・者の福祉サービスについての相談	障害者相談支援事業所	※お住まいの地域を担当する事業所等の連絡先を記入してください。
訪問や外来による療育指導や障害児等についての相談	障害児等療育支援事業実施	

広域の関係機関		
相談の内容	窓口名	連絡先 / 掲載先
障害児・者に関する総合的な相談	香川県障害福祉相談所	(087)867-2696 <a href="http://www.pref.kagawa.jp/shousou/">http://www.pref.kagawa.jp/shousou/</a>
発達障害児・者に関する専門相談	発達障害者支援センター アルプスかがわ	(087)866-6001 <a href="http://www.kagawa-reha.net/alps.html">http://www.kagawa-reha.net/alps.html</a>
子どもの養育・児童虐待等についての相談	(東部) 香川県 子ども女性相談センター	(087)862-8861 <a href="http://www.pref.kagawa.jp/kj-soudan/">http://www.pref.kagawa.jp/kj-soudan/</a>
	(西部) 香川県 西部子ども相談センター	(0877)24-3173 <a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/kj-soudan/seibu/index.html">http://www.pref.kagawa.lg.jp/kj-soudan/seibu/index.html</a>
子育ての不安や心配、子どものことばや発達の遅れに関する相談	(さぬき市、東かがわ市、木田郡、香川郡) 東讃保健福祉事務所	(0879)29-8264 <a href="http://www.pref.kagawa.jp/tosanhoken/">http://www.pref.kagawa.jp/tosanhoken/</a>
	(小豆郡) 小豆総合事務所	(0879)62-1373 <a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/shozu/hokenfukusi/">http://www.pref.kagawa.lg.jp/shozu/hokenfukusi/</a>
	(丸亀市、坂出市、善通寺市、綾歌郡、仲多度郡) 中讃保健福祉事務所	(0877)24-9963 <a href="http://www.pref.kagawa.jp/chusanhoken/">http://www.pref.kagawa.jp/chusanhoken/</a>
	(三豊市、観音寺市) 西讃保健福祉事務所	(0875)25-2052 <a href="http://www.pref.kagawa.jp/seisanhoken/">http://www.pref.kagawa.jp/seisanhoken/</a>
	(高松市) 高松市保健センター	(087)839-2363 <a href="http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/15043.html">http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/15043.html</a>

VIII

参考資料

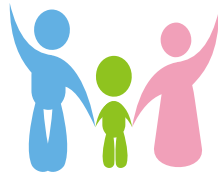


教育相談、就学についての相談、園・所・学校・学級経営への指導助言等	県立盲学校【視覚】	(087)851-3217 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/mogaku01/">http://www.kagawa-edu.jp/mogaku01/</a>
	県立聾学校【聴覚】	(087)865-4492 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/rogaku01/">http://www.kagawa-edu.jp/rogaku01/</a>
	県立香川中部養護学校【知的】	087-867-3522 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/chubuy01/">http://www.kagawa-edu.jp/chubuy01/</a>
	県立香川丸亀養護学校【知的】	0877-24-1215 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/maruyo01/">http://www.kagawa-edu.jp/maruyo01/</a>
	県立香川東部養護学校【知的・肢体】	0879-52-2581 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/tohbuy01/">http://www.kagawa-edu.jp/tohbuy01/</a>
	県立香川西部養護学校【知的・肢体】	0875-25-1775 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/seibuy01/">http://www.kagawa-edu.jp/seibuy01/</a>
	県立高松養護学校【肢体】	087-865-4500 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/takayo01/">http://www.kagawa-edu.jp/takayo01/</a>
	県立善通寺養護学校【病弱】	0877-62-7631 <a href="http://www.kagawa-edu.jp/zenyo01/">http://www.kagawa-edu.jp/zenyo01/</a>
	香川大学教育学部附属特別支援学校【知的】	0877-48-2694 <a href="http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokusi/">http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokusi/</a>
学校生活や教育・子育てに関する悩みの相談	香川県教育センター	(087)833-4235（来所相談） (087)862-4533（電話相談） <a href="http://www.kec.kagawa-edu.jp/">http://www.kec.kagawa-edu.jp/</a>
発達について気になる子どもの直接指導、又は保護者や先生からの対応・進路の相談	香川大学教育学部特別支援教室「すばる」	(0877)46-8532 *事前要予約。詳細は URL 参照 <a href="http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/">http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/</a>
子どもの発達の問題、または何らかの問題を抱えた子どもに関する相談	四国学院大学子ども家庭相談室	(0877)62-2111 *事前要予約。詳細は URL 参照 <a href="http://www.sg-u.ac.jp/view.rbz?cd=113">http://www.sg-u.ac.jp/view.rbz?cd=113</a>
発達障害等に関する診療	医療機関	「発達障害医療機関リスト」 URL 参照 <a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogai hukushi/fukushijoho-hp/news/hattatu syougaiiryokikann_.pdf">http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogai hukushi/fukushijoho-hp/news/hattatu syougaiiryokikann_.pdf</a>



#### ※その他

「気になる子ども保護者・支援者のための『相談・療育機関のための相談機関一覧』」（行政機関・教育機関・団体）をご活用ください。[香川県ホームページ掲載]  
<http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogai hukushi/fukushijoho-hp/335.html>



# 気になる子どもの 気づきと支援の手引 (改訂版)

— 保育所・幼稚園での支援の要点 —

発行日：平成 26 年 3 月

発行：香川県健康福祉部子育て支援課  
〒760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号